ワークスペースのリフレッシュ広がる

進化するオフィスドリンクサービス

オフィスで仕事中や休憩時間、ドリンクや菓子をつまんでリフレッシュする風景や日常よく見られるものだ。高機能マシンで高品質を追求する最新のオフィスの飲料サービスを追う。

▲▶（上）オフィス一画にコーヒーコーナー（中）スペシャルティコーヒー（下）スイスのコーヒーマシン「FRANKE」

福利厚生の一環 コーヒーマシン設置

給湯室で「お茶当番」の社員が全員分のお茶を入れてお盆にいくつもの湯飲みをのせ配る習慣は過去の話、現在は福利厚生の一環でオフィスにコーヒーマシンや給茶機、ウォーターサーバー機器を設置する企業も多い。オフィス内に1台あれば、ワーカーは都合のよいタイミングで好みのドリンクを楽しむことができる。

1977年より日本で初めてオフィス向けのコーヒーサービス事業を展開したダイオーズ（東京都千代田区）では、今ではコーヒーだけでなく、日本茶や水など、顧客の好みの多様化に対応した多くの商品や機器を提供している。

同社は日本で初めてオフィスコーヒーサービスを事業化し、さらにオフィスコーヒーの本場ともいえる米国へ逆上陸のほか、韓国や中国、マレーシア、シンガポールなど東南アジアにも進出している。自社工場で焙煎をすることでコストを抑え、市場のニーズや社会の変化にきめ細かく対応する製品展開が可能となる強みがある。

全国でサービス展開 ボタン一つで「特別な一杯」

代表取締役社長の大久保真一氏は、日本でコーヒーサービスをスタートさせた背景を振り返る。

「1970年代の日本ではオフィスの飲み物といえば日本茶があたりまえで、まだ社員がお茶を汲む時代でした。米国で見たオフィスコーヒーサービスの光景を思い起こしながら、『いずれ日本でも必ずオフィスでレギュラーコーヒーを飲む時代が来る』と、事業化しました」。

現在は北海道から沖縄まで直営店、FC特約店を合わせ全国に3000拠点の規模、20万軒以上の顧客にドリンク他清掃サービスなどのさまざまなオフィス向けサービスを展開している。

カフェブームや高級化志向などもあり、提供する飲料には徹底的に高品質を追求。特にコーヒーサービスでは「World Brewers Cup2016」でアジア初の世界チャンピオンに輝いた粕谷哲氏（Philocoffee代表）が生豆の選定から焙煎、抽出レシピまでを監修したスペシャルティコーヒーと、スイスの最高級プロフェッショナルコーヒーマシン「FRANKE」によって「カフェラテ」や「ほんのりと甘いカフェモカ」、「抹茶ラテ」、「生クリームのようなフォームミルクのカプチーノ」など多彩なメニューが楽しめる。オフィスにいながらボタン一つで手軽に「特別な一杯」を体験できるのだ。

「行きたくなるオフィス」づくり応援 企業の二極化に対応

ダイオーズ
代表取締役社長
大久保　真一氏

新型コロナウイルス感染拡大以降、大都市圏の企業の多くでテレワークや出勤抑制が進み、飲料サービスの既存顧客からの売上減となりました。テレワークが進んだなかで、いま企業は「オフィスを縮小したい」という企業と、出社が減ったからこそ「会社に来てよかった」と思えるような空間を創りたいという企業の二極化がみられます。私たちは後者の企業から新たなご契約をいただくことが多く、出社した社員の方々に美味しいコーヒーや私どものさまざまなサービスを通じて「行きたくなるオフィス」づくりを応援させていただいています。

オフィスの役割変わる コミュニケーションへ

働く環境は多様化しているが「一杯の飲み物」は欠かせないものだろう。「バリスタがいなくてもカフェのクオリティを演出したい」、「常に1杯のコーヒーのカップクオリティを最上級のものとしたい」という同社のコンセプトは、テレワークが定着し、オフィスに求められる役割は「コミュニケーション」といわれるこの時代を反映しているという。社員同士の交流のきっかけにもなる「コーヒータイム」を演出、後押しするサービスは今後さらに広がるだろう。

オフィスに菓子類を常備する「おやつ」サービス、置き野菜、置き型社食、無人コンビニなど多岐にわたる。ダイオーズも今後は、福利厚生費を従業員に均等配分できるダイオーズペイメントシステム、オフィスカフェテリアサービス、オフィススナックサービス、また環境衛生サービス部門ではレンタルマット・モップの除菌加工、化粧室内の衛生関連商品の新規開発、除菌・制菌をアピールする清掃サービス（ダイオーズカバーオール）も注力する構えを示している。

「コロナが収束すれば、特に人材を最優先に考えている企業は、働きやすい、働きたくなるような環境を作ることが必要不可欠になると考えます。従業員の勤労意欲を高めるため福利厚生を充実する動きは、ますます活性化することでしょう。私たちは50年以上にわたりオフィスサービスに携わってきた経験とノウハウを活かし、さまざまサービスを通じてお客様のニーズにあったご提案とともに、これからもオフィスを応援してまいります」（大久保氏）。オフィスの進化と新しいサービスに期待。